

月刊 社会保険 12

2016 VOL.797

一般社団法人
全国社会保険協会連合会



平成27年度年金積立金の運用状況について(概要)

治療と仕事の両立について

平成28年版厚生労働白書 人口高齢化を乗り越える社会モデルを考える(概要)

日本年金機構からのお知らせ

風水害・震災等により被災されたとき

平成27年度年金積立金の運用状況について(概要)	4
治療と仕事の両立について	6
平成28年版厚生労働白書 人口高齢化を乗り越える社会モデルを考える(概要)	8
日本年金機構からのお知らせ 風水害・震災等により被災されたとき	12
人生とともにある社会保険 第17回(最終回) 後期高齢者医療制度 監修/社会保険労務士法人森萩経営労務管理事務所	13
年金・健康保険委員活動報告 福島社会保険委員会の活動をとおして 葉産業株式会社代表取締役 中島 照夫	16
世界の街かどで道ばたで 第155回 赤毛よ 生姜よくじけるな(上) エッセイスト 藤川 鉄馬	18
書評 加藤 陽子著『戦争まで - 歴史を決めた交渉と日本の失敗』	21
自分らしく生きる社会とは 第2回 病気に自分らしさを妨げられることのない社会に〈がん治療と就労の両立を支援する②〉 NPO法人キャンサーリボンス委員・事務局長 廣瀬 瑞穂	22
認知症にやさしい社会を考える—本人、家族、医療、地域につながるために 第8回「第2の認知症」を知っていますか? 増える「レビー小体型認知症」 横浜市立大学名誉教授・NPO法人ハートリング運動代表理事 小阪 憲司	24
機能的に食べることで病気を予防する ファンクショナルダイエット 第8回 食べ合わせと健康効果 一般社団法人日本ファンクショナルダイエット協会理事長 白澤 卓二	26
人生100年時代を生きる② 第20回 気をつけよう、冬の寒暖差 監修/学校法人聖路加国際大学名誉理事長・聖路加国際病院名誉院長 日野原 重明	28
社会保険Q&Aシリーズ 健康保険編 30/年金保険編 32/介護保険編 34/労働保険編 36 特定社会保険労務士 鈴木 ひろみ	

表紙写真・竹内敏信/イラストレーション・平松尚樹、水森亜土、寒河江智果/題字・たけぞう/デザイン・STデザイン、(有)フェイム/編集協力・(株)アップハウス/印刷・(株)アイネット

表紙のことは——竹内敏信 「光の響」**「グレウビュンデン」**

スイス連邦(Swiss Confederation)



ヨーロッパを数多く取材にした中で1、2を争うくらい多く取材したのがスイスである。それだけ私が好きなの。自然は美しい街も美しい。私が行くところは街と自然が共存しているような場所が多く、長い間都会で生活している私には憧れもあった。

写真のように雪が降れば街、自然は白く覆われてしまう。おとぎ話のモデルになることの多いスイス。なにか不思議なことが、どこかで起きているのではないかと思わせてもくれる。

海外取材では、異国で目新しい風景を新鮮な気持ちで撮影できるが、ここスイスでは異国というだけでなく、それ以上に不思議な気持ちにさせてくれる場所である。だからこそ、私はこの国が好きなのだ。

© 本誌制作にあたっては、国等からの補助金等を一切受けておりません。

福島社会保険委員会の活動をおして



葵産業株式会社代表取締役
中島 照夫

●地域の紹介

「フクシマ」は、東日本大震災と原発事故により世界ブランドになってしまいました。そんな福島県の中央部の北側、奥羽山脈と阿武隈山地に囲まれた盆地に、人口30万人の福島市があります。

市街地の東側には、写真家・秋山庄太郎氏が生前に毎年春に訪れて写真撮影をした、桃源郷「花見山」があります。

花でおおわれた「花見山」と、市街地の西側に聳える残雪の吾妻連峰は、見る者の心を魅了します。

美しい山々の山麓には、飯坂温泉をはじめとして土湯温泉、高湯温泉、野地温泉等の多くの名湯が点在しており、身近な自然と温泉は福島市の大きな魅力のひとつです。

また、山の裾野には「さくらんぼ」「もも」「なし」「ぶどう」「りんご」等の果樹園が広がり、その種類と生産量は全国屈指であり、おいしいくだものを育む果樹王国でもありません。

福島市のキャッチフレーズは、まさに「花も実もある福島市」です。

●事業所の紹介

弊社・葵産業株式会社は、昭和46年創業から今年で46年目を迎えます。

主な業務としては、各種高圧ガスの製造・販売と、医薬品やさまざまな産業で使用される機械工具等の販売を行っています。

福島県内各地に製造と販売の拠点があり、生産製造現場、病院、水産業関係、エネルギー産業等から一般家庭まで、幅広い事業領域のユーザー様との取引を通して、安全で豊かな地域社会実現に貢献することを目指しています。

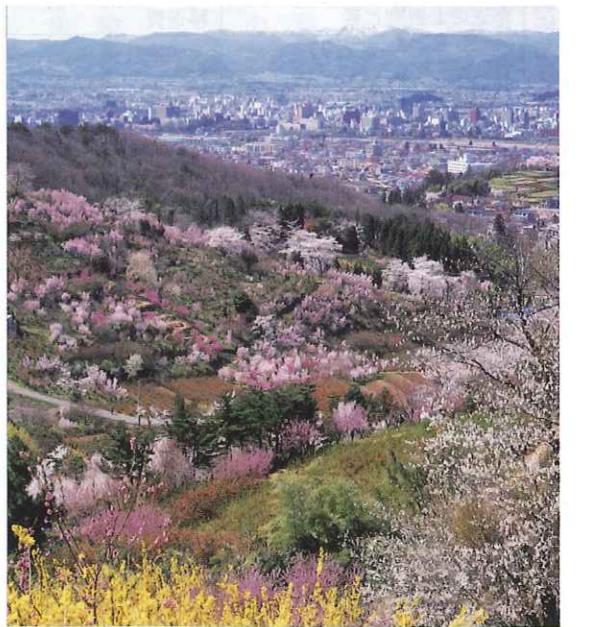
原発事故により移転を余儀なくされた支店もありますが、これからの地域とともにさらなる成長に向けて全力で取り組んでいきたいと思っています。

●福島社会保険委員会について

私の所属する福島社会保険委員会は、福島支部・二本松支部・伊達支部・伊達南支部の4支部からなり、現在の会員数は430名です。

主な事業として、①委員会研修会(年2回)、②輝く女性のための研修会、③4者共催の事務講習会、④優良事業所視察研修(1泊)、⑤社会保険協会と共催のハイキング・ボウリング大会、⑥「委員必携」「社会保険ダイアリー」配付、⑦「月刊社会保険」誌配付、等を実施しています。

社会保険制度について理解を深められるよう、研修会の開催や参考図書の配付等に努めています。



福島市紹介

●輝く女性のための研修会について

先行実施していた青森県と秋田県を参考に、女性委員のための「輝く女性のための研修会」を昨年初めて開催し、今年は第2回目を開催することができました。

この研修会は、①参加者は女性限定、②研修テーマは社会保険事務研修と女性のための研修の2テーマ、③長めの休憩時間としてスイーツと飲みものを奮発して少し寛いでいただく、ことを基本として開催しています。

昨年度は「認知症サポーター養成講座」を行い、認知症について理解を深めるとともに、講座終了後に参加者全員がオレジンリングを授与されました。

今年度は「相手を思いやるビジネスマナー」をテーマに、美しいマナー、思いやりのあるマナーについて、外部講師を招いて講演いただきました。

参加者アンケートでは、どちらの講習会も、研修テーマ・スイーツとも大変好評をいただきました。

●4者協議について

年金事務所・協会けんぽ・社会保険協会・委員会(事務局)の4者で、不定期ですが年6回程度協議を行っています。

主な協議内容は、事業日程の調整や、研修会等の事業内容の充実に向けた協議ですが、この間、共催することによって研修内容の充実や、表彰伝達式の4者共同開催等の成果がありました。

また、年金委員・健康保険委員の委嘱者増と、社会保険委員会の会員数増に向けた協働奨励も実施しています。

協働奨励の実施方法としては、先行して年金委員と健康保険委員の勧奨を行い、委員会への情報提供同意があった方々に、委員会から勧奨を行います。

情報提供について同意は得られるものの、委員会から勧奨してもなかなかご加入いただけない厳しい現状にあり、社会保険委員会に対する理解や知名度アップが必要と感じています。

●今後について

役員の立場になります。役員の方々と力をあわせ、知恵を出しあうとともに、年金事務所や協会けんぽ、社会保険協会と密接に連絡をとりながら連携し、会員の皆さんに歓迎いただける事業が企画できればと思っています。

また、委員会活動や懇親会をとおして、企業の垣根を越えて会員相互の親睦が深められるよう努めていきたいと思っています。

●おわりに

東日本大震災と原発事故の際に賜りましたご支援と物心両面のご援助に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

また、熊本地震をはじめ水害や台風等の被害に遭われました皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

全国の社会保険委員の皆さまのご活躍をご祈念申し上げます。
(福島社会保険委員長 福島県社会保険委員会連合会長)



葵産業株式会社